

フィリピンのバスケットボールとサッカー・フットサル ～マニラでの現地調査を通じて～

Basketball and Football/Futsal in the Philippines

～Through on-the-spot investigation in Manila～

1K06B004

指導教員 主査 石井昌幸先生

浅野雅人

副査 寒川恒夫先生

【はじめに】

フィリピンは、一人当たり GNP（米ドル）は 1,902（2008 年）の発展途上国である。1991 年に米軍基地が撤退し、独自の道を歩み始めたと言われているこの国では、今後スポーツ界も変化が予想される。今回は、その中でバスケットボールとサッカー（フットサル）を取り上げる。フィリピンでは、バスケットボールが圧倒的な人気を誇る一方、サッカー（フットサル）の人気はいま一つである。世界中で支持されているこの二つのスポーツの人気差は、この国でいかにして生まれているのか。本論文では、現地調査も行いながらこの二つのスポーツの過去・現在を調査する。また、この二つのスポーツがフィリピンという国と共に今後どの様に変容していくのかを考察する。

【本論】

第一章ではフィリピンとフィリピンのスポーツについて記述する。最初にフィリピンの現状を明らかにし、その特徴がいかにスポーツに影響を与えるのかを考察する。その上で、フィリピン人に対し行ったアンケートを用い、フィリピンのスポーツの現状を明らかにする。加えて、国民的英雄であるボクサーマニー・パッキャオについても取り上げる。第一章は本論の基盤と言える部分となる。

第二章ではフィリピンのバスケットボールについて記述する。まず、その歴史と現状につい

て述べる。次に二つのプロリーグ、PBA（Philippine Basketball Association）と ABL（The ASEAN Basketball League）について、現地調査での報告と共に記述する。この章の最後では、フィリピンのスポーツ人気を支える役割を果たしている賭博についても取り上げる。

第三章ではフィリピンのサッカー・フットサルについて記述する。まず、その歴史と現状について述べる。次に、PFF（フィリピンサッカー協会）の方々に行ったインタビューについて記述する。最後に、私が見学・体験させて頂いた、フィリピン女子フットサル代表監督によるフットサルスクール、フィリピン女子フットサル代表練習、FUTSALCUP2009 について記述する。

【終わりに】

フィリピンでのバスケットボール人気は日本でのスポーツには例えられないほど圧倒的なものである。それを見れば、PBA の運営は今後も安定すると見込まれる。ABL は今後も模索が続くであろうが、ASEAN というフィールドを上手く利用出来れば、発展の可能性は十分ある。一方、バスケットボールの陰に隠れてしまっていたのが、サッカー（フットサル）であった。二つのスポーツの明暗が分かれた理由としては、統治されていたアメリカの影響を始めとし、政治的理由・経済的理由・国民性と関連した理由等、様々な理由が挙げられる。サッカー・フットサルは現地調査を通じ、厳しい状況にあるこ

とを理解できたが、同時にサッカー人口は少ないということ等、プラスの面も確認できた。工夫や背景次第では今後人気を得ていく可能性もある。フィリピンのバスケットボールとサッカー・フットサルが、フィリピンという国と共にどの様に変容していくのか、今後より注目していくべきだと考える。